

製品名: アセチルヒストン H2A (K5) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04161**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	14kDa

抗原情報

遺伝子名	H2AFZ
別名	H2AFZ; H2AZ; Histone H2A.Z; H2A/z
遺伝子 ID	3015.0
SwissProt ID	P0C0S5
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H2A の Lys5 のアセチル化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

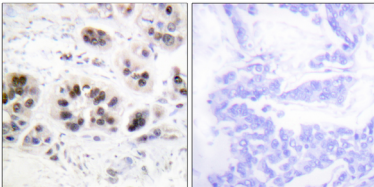
ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。ヌクレオソームは、4つのコアヒストン

(H2A、H2B、H3、H4) がそれぞれ対になって構成されるヒストン八量体に巻き付いた約 146 bp の DNA で構成されています。クロマチン繊維は、リンカーヒストン H1 とヌクレオソーム間の DNA との相互作用によってさらに凝縮され、高次のクロマチン構造を形成します。この遺伝子は、ヒストン H2A ファミリーの他のメンバーとは異なる、複製非依存的なメンバーをコードしています。マウスを用いた研究では、この特定のヒストンが胚発生に必要であり、機能的なヒストン H2A の欠損が胚致死につながることを示されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],function: ヌクレオソームのサブセットにおいて、従来の H2A を置換する変異ヒストン H2A。ヌクレオソームは DNA を包み込み、クロマチンに凝縮することで、DNA を鋳型として用いる細胞機構への DNA のアクセスを制限します。そのため、ヒストンは転写調節、DNA 修復、DNA 複製、そして染色体の安定性において中心的な役割を果たします。DNA のアクセス性は、ヒストンの複雑な翻訳後修飾（ヒストンコードとも呼ばれます）とヌクレオソームリモデリングによって制御されます。恒常的なヘテロクロマチンの形成に関与している可能性があります。細胞分裂中の染色体分離に必要である可能性があります。、質量分析: モノアイソトピック、未修飾 PubMed:16457589,PTM: 間期に Lys-5、Lys-8、Lys-12 がアセチル化されます。アセチル化は有糸分裂時に消失する。、PTM:Lys-122 のモノユビキチン化は、エピジェネティックな転写抑制のための特異的なタグとなる。、PTM: リン酸化されない。、類似性: ヒストン H2A ファミリーに属する。、サブユニット: ヌクレオソームは、H2A、H2B、H3、H4 のそれぞれ 2 分子を含むヒストン八量体であり、1 つの H3-H4 ヘテロ四量体と 2 つの H2A-H2B ヘテロ二量体を形成する。八量体は、約 147 bp の DNA を包み込む。H2A またはその変異体である H2AFZ は、H2B とヘテロ二量体を形成する。H2AFZ は INCENP と相互作用する。、

研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



ヒストン H2A (アセチル-Lys5) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。